



信念持ち突き進む



亥年生まれの県内経営者 新年の抱負

今年のえとは亥。亥年生まれは、何事にも熱心で勇気があり、我慢強くやり遂げるとされる。堅調な景気の中迎えた2019年だが、人手不足や米中の貿易摩擦など一部懸念材料もある。気概を持ち、強いリーダーシップで会社を率いて突き進む年男女の経営者たちに抱負を聞いた。



リーピー

川口 聡 社長

1983年11月2日生まれ

「岐阜県での地盤固めに取り組み、成功した。これからは全国での知名度を高めていきたい」と抱負を語る。2013年に岐阜市にエターニティ設立。今ではホームベジ(日産)制作で県内最大規模を誇る。「岐阜、愛知だけでなく、最近は全国からの仕事も増えている」と手応えを感じる。

またクラウドサービスにも力を注ぐ。「今は売上高全体の1割程度しか占めないが、現在は日産制作と平々くらしい割合にしたい」と意気込む。プライベートは自他共に認めるクメン。一度仕事を切り上げて子どもを専らしつけ、それから仕事に戻る生活だ。「育児をする気持ちが分かってもらえる」と社員からも評判がいい」と笑顔を見せる。

(本社・岐阜市)



カワボウ

川島 政樹 社長

1971年10月17日生まれ

ショッピングセンターのマーサ21(岐阜市正木中)を運営。「マーサの将来に向けて、肅々と計画を立てていく年にしたい」と抱負を語る。34歳で社長に就任。「目先の課題を一つ一つ解決すること力を注いできた」と振り返る。また、「若手として社内外の諸先輩方に助けてもらってきたが、子育てが一段落する年になった。今度は私がこれまでの恩返し」

として後輩を育てていこうと責任を自覚する。「初代が繊維業、2代目がショッピングセンター事業を立ち上げたが、3代目の私は自分の力でゼロから立ち上げたことがない」と総括。「これからはゼロから新規事業を立ち上げることに取り組んでいきたい」と意気込む。

(本社・岐阜市)



バローホールディングス

田代 正美 会長兼社長

1947年6月9日生まれ

「年を取るほどにシンプルに考えるようになった。仕事は70歳を過ぎてからだと意欲をみなぎらせる。社長就任から25年たち、バローホールディングスは年商5千億円規模まで成長。「経営者として、やっとながらつてきた」と笑う。人工知能(AI)をはじめ技術革新は目覚ましく、キャッシュレス決済や無人店舗など小売業界も急激に変化し

ている。「変化は止められない。以前は是非かと考えていたが、今はそういうものだと思えるようになった」と明かす。65歳から始めた剣道が健康づくりや生きがいにつながっている。「自分で限界を決める必要はない。これからも新しい経験をしたい」と先を見据える。

(本部・多治見市)



サムソン

野村 真重 社長

1959年9月23日生まれ

「美容業界は大きな過渡期を迎えている。新たなビジネスモデル構築も視野に、顧客満足と社員満足を高めるスタートの一年にしたい」と抱負を語る。社長就任から24年目。フランチャイズ制度導入やカットとヘアカラーの分業化、メンテナンス制など新業態を次々と打ち出し、国内外に店舗を拡大。米ニューヨークから店舗撤退後は厳し

い中で経営効率化を進めるが、「挑戦し続けることが大切」に続けることが大切。失敗も成功への糧にしたい」と語る。近年は美容業界が飽和状態で、競争は激化している。「デザインが良質ということはもちろん大前提。時代が求める需要に即して美容チャネルへの成長に挑戦する志は揺るがないようにしたい」と自戒を込める。

(本社・岐阜市)



ハイビックス

高井 順子 社長

1959年4月8日生まれ

「海外で戦える力を付け、自社製品の海外展開が花開く一年にしたい」と抱負を語る。素材の開発から加工、梱包まで一貫体制が売りのフィルム層着加工製品メーカー。相手を先陣に定める生産(OMEM)を中心に、介護用エアーマットや高速道路のETCバーなど幅広い製品を手掛ける。2年前から海外向けの自社製品の製

造を乗り出し、エアーマットはランタやカナル、インドネシアなどに展開。国内向けにはファッション性の高いバッグなども商品化した。「より良い製品作りをお客さまに提案したい」と語る。社長就任から18年目。「何でも精進でやってきた。今後はもっと人のお役に立てるようになりたい」と意気込む。

(本社・瑞穂市)

海外展開が花開く一年に

挑戦し続けることが大切

シンプルに考え、変化対応

全国での知名度を高める

マーサの将来、肅々と計画